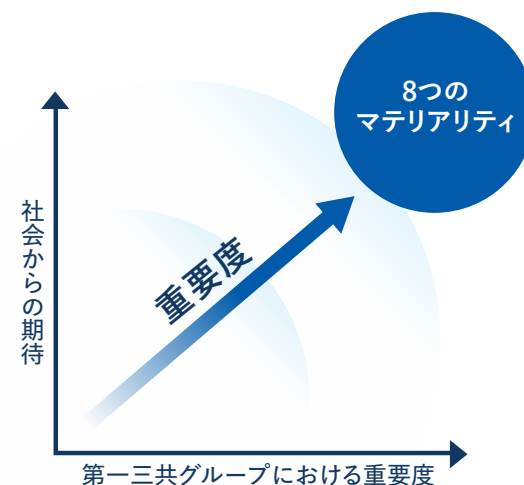


# マテリアリティ

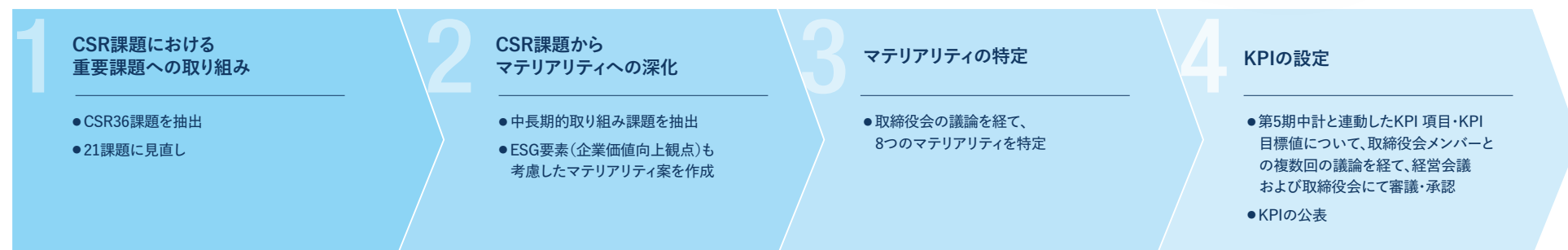
当社グループでは、持続的な成長に向けて取り組むべき重要課題を、当社グループにおける重要度（中長期的な企業価値に影響を及ぼす重要性）と社会からの期待の両面から、8つのマテリアリティとして特定し、「事業に関わるマテリアリティ」と「事業基盤に関わるマテリアリティ」に整理しました。第5期中期経営計画（以下、第5期中計）の策定時に、マテリアリティごとの長期目標と課題に加え、取り組み指標としてのKPIを設定しています。

## マテリアリティの特定とKPI設定までの経緯

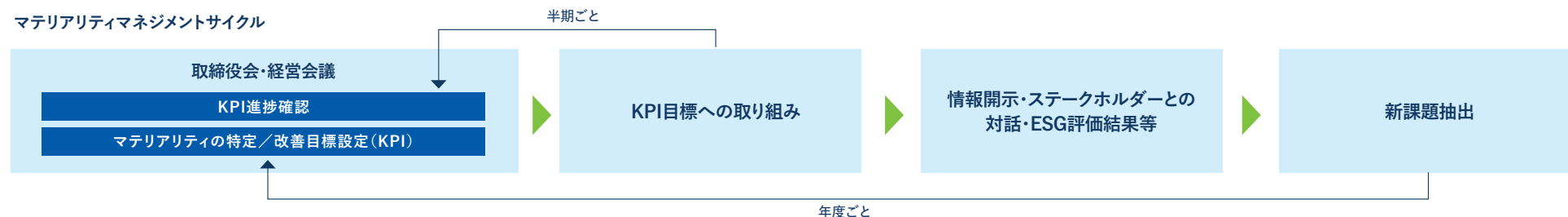
マテリアリティの特定と整理にあたっては、2015年度にCSRの観点から、36課題を選定しました。その後、数度に亘る見直しや経営会議・取締役会での活発な議論、ステークホルダーとの対話等を踏まえ、2020年3月に8つのマテリアリティを特定し、その取り組み指標であるKPIを2021年4月に公表しました。マテリアリティの特定とKPI設定のプロセスは、以下図示している通りです。



### マテリアリティ特定とKPI設定までのプロセス（2015年度～2021年度）



### マテリアリティマネジメントサイクル



## サステナビリティマネジメント

当社グループでは、CEOの指示に基づき、ヘッド オブ グローバル コーポレートストラテジーが、サステナビリティ課題のうち、人権、Environment, Health and Safety(以下 EHS)、サステナビリティ情報開示、社会貢献活動に関するグローバル推進体制を構築・運営し、各組織・地域における施策を全社戦略に統合させていきます。

これらの課題に特化したサステナビリティ コミッティ(議長: Head of Global Corporate Strategy)を設置しており、原則年2回以上開催しています。経営会議の諮問機関として、全社戦略・方針を審議するとともに、年度・半期ごとの計画や実績をモニタリングしています。

サステナビリティ コミッティにおいて審議・報告された全社戦略や方針、重要課題(マテリアリティ)は、経営会議において審議・報告されます。

なお、企業倫理・コンプライアンス推進活動についてはエシックス&コンプライアンス コミッティ(原則年1回以上開催)において審議・報告の上、取締役会に報告しています。

サステナビリティ コミッティは、2024年度は1月と3月に開催されました。EHSでは2025年度計画やネットゼロ移行計画の策定状況について、サステナビリティ情報開示ではSSBJ<sup>※1</sup>・CSRD<sup>※2</sup>新基準への対応計画について、人権では人権アセスメント結果について議論しました。その後、EHSおよびサステナビリティ情報開示の重要事項については、経営会議へ報告しました。

※1 Sustainability Standards Board of Japan(サステナビリティ基準委員会)

※2 Corporate Sustainability Reporting Directive(企業サステナビリティ報告指令)

### サステナビリティマネジメント体制

